
情報番号：教育技法—24

テーマ：職場風土分析法

編著者：IBEX-T

1. 組織開発と職場風土分析

組織開発の研修の中で用いられる技法に職場風土分析法がある。組織開発は、「組織の卓越性や健全性を高めるために、組織を動かしている人の価値観や態度、風土、関係などの変革を図っていく」組織戦略である。具体的な方法としては、組織活動のプロセスに行動科学の理論や技法を用いて介入しながら、組織の体質強化や協働体制を図っていく。

組織開発は次の三つの段階で進んでいく。

第一段階では現状の問題を客観的に把握し、問題解決の共通認識を図っていく。第二段階は、現状の的確な分析を行ったうえ、理想モデルを設定し、計画的な組織づくりの構想を立案する。最後の段階では、行動科学の技術を駆使して、意図的に理想モデルへの変革を図る。この第一段階で職場診断会議や職場診断アンケートなどで現状分析するが、そこで用いられるのがこの「職場風土分析法」である。この技法は組織開発のためだけでなく、職場の活性化のためにも用いられるため、一般の研修技法としても活用されている。